





COMMONWEALTH INSTITUTE OF ENTOMOLOGY

Library & Information Service

50 Queen's Gate, London SW7 5JR, UK

Telephone: 01-594 0337 Cable: ENTINFO London S.W.7















## は し が き

この1年間の 象徴的な出来事は 石油危機によって代表される 狂乱物価であった。お蔭で第2共同検査実験室の建設は 1年延び 本誌の印刷にも 困難が増している。

相次ぐ化学工場の事故と 原油の不足とは 化学品原料の供給不足を招き 農薬の生産と供給にも 著しく 危惧を与えた。幸にさしたる支障もなく 農薬使用の季節を終え 当所としても安堵しているが 農薬関係者は 厳しい教訓と 深い示唆を体験する結果になった。

石油の問題は 世界人口の3%に足りない日本が 世界の石油貿易量の 2割とか 3割とかを独占できる時代は過ぎた と論評され エネルギー政策の転換や 産業構造の变革が主張されている。

このような時に恒例により 所報第14号を世に送ることとなった。

情報交換の場として いさゝかなりとも お役に立てば幸である。

昭和49年10月

鈴木 照 磨



頁	行	誤	正
38	題 名	キノサリン及びキャブタン	キノキサリン及びキャブタン
43	右 18	雑柑等により	雑柑等より
47		第3図のグラフ	第5図のグラフが入る
47		第4図のグラフ	第6図のグラフが入る
47		第5図のグラフ	第3図のグラフが入る
47		第6図のグラフ	第4図のグラフが入る
47			第6図説明文1つ(小)削除
54	題 名	黒斑病について	黒斑病菌について
55			56頁と入れかえる
56			55頁と入れかえる
55, 57, 59, 63, 65	柱	黒斑病について	黒斑病菌について
58	第2図縦軸	D i m e t e r	D i a m e t e r
61	第5図横軸	R. S. S e m	R. S. S e m e
65	左 12	P o l y o x i n - r e s i t a n t	P o l y o x i n - r e s i s t a n t
66	右下 1	㏞ 20	㏞ 29
79	英文氏名	S u z u k i	S U Z U K I
79	"	K a s h i w a	K A S H I W A
80	"	O k a d a	O K A D A
80	左 4	H, o r y z a e	H. o r y z a e
90	右 6	h e x a	h e x a -
93	右 35	J o r g	J o r g
91, 93, 95	柱	スペクトル	マスペクトル
101	左 4	P o l y h e d r o s i s,	P o l y h e d r o s i s v i r u s,
107	右 16	脱 字	3
108	左下から14, 5	(第3表参照)	(第4表参照)

農薬検査所報告 14 号が出来上り、お手元へお届けいたしますが、手違いにより多くの誤りを生じました。

お詫びいたしますと共にお手数でも下記の訂正をお願いいたします。

編集委員会

頁	行	誤	正
目次	23	キャプタン及びキノキサリン	キノキサリン及びキャプタン
"	24	植物中に残留	植物体に残留
"	28	黒斑病について	黒斑病菌について
"	28		吉田孝二 削除
"	30	影響について	影 響
"	42	多角体ウイルス	多角体病ウイルス
英文目次	12	NISHZIMA	NISHIJIMA
"	17	oryzasativa	<u>oryzasativa</u>
"	31	KACHIWA	KASHIWA
" 6	<del>6</del> <sup>5</sup> 7		<del>も</del> <sup>5</sup> 行と 7 行入れかえ
15	左 23	脱 字	46
15	左 28	"	97
16	左 5	"	112
16	右下から1	"	21
17	右 8	"	116
18	題 名	Actiuitils	Activities <sup>e</sup>
18	"	ob	of the
18	"	Stotiez <sup>n</sup>	Station
18	"	Ahyil	April
18	"	Maych	March
20	英文氏名	Tsuge	TSUGE
20	"	Hanzawa	HANZAWA
24	"	SEKIGUSHI	SEKIGUCHI
25	題 名	Corbaryl	Carbaryl
30	英文氏名	Tuge	TSUGE
31	題 名	機器分析法	機器分析法



# 目 次

## 昭和48年度における農薬検査所の概況

I 総 務	7
II 検査業務	9
III 調査・研究活動	11
IV 技術連絡・指導	12
V 各課業務	13
化学課	13
生物課	15
農薬残留検査課	16
技術調査室	16
VI 各委員会業務	17
農薬情報処理近代化委員会	17
ラジオアイソトープ委員会	17
著	
柘植茂晃・榛沢忠夫・鈴木啓介・柏 司：スルフェン酸系水和剤（ジクロフルアニド、ユーバレン）のガスクロマトグラフィーによる分析	19
鈴木重夫・関口義兼・鈴木啓介・越中俊夫・柏 司：防虫防菌袋中の農薬の分析法	21
石井康雄・柘植真菜子・中村広明：カーバメート系殺虫剤の微量分析に関する研究	25
第4報 野菜におけるNAC（carbaryl）	
渡辺孝弘・小林直人・芳賀順子：作物中の金属の残留分析	31
第1報 鉛及び銅の機器分析法比較試験	
山下幸夫・西島修・川原哲城・中村広明：いちごにおける農薬の残留	38
第1報 キャブタン及びキノキサリン	
馬場洋子：植物中に残留するストレプトマイシンの定量	42
第3報 食用作物について	
石谷秋人・行本峰子・吉田孝二：矮稲〇を用いたジベレリン製剤の生物検定について	46
行本峰子・小田雅庸：イネカルスにおけるpropanil分解酵素について	49
巖井寿・島田徳治・吉田孝二：ポリオキシン耐性ナシ黒斑病について	54
第3報 培地上の性質と病原性	
西内康浩・吉田孝二：農薬のオタマジャクシに及ぼす影響について（第3報）	66
西内康浩：農薬のアオウキクサに対する防除効果	69
報	
巖井寿・島田徳治・吉田孝二：硫酸アンモニウムがポリオキシンの力価試験に及ぼす影響	73
録	
鈴木啓介・宮下紘一・永吉秀光・柏 司：農薬の系統的定性・定量分析に関する研究（第3報）	77
鈴木啓介・永吉秀光・柏 司：農薬の系統的定性・定量分析に関する研究（第6報）	78
鈴木啓介・永吉秀光・柏 司：農薬の系統的定性・定量分析に関する研究（第7報）	79
岡田利承：ヘテロデラ属線虫のシスト内から得られるふ化刺激物質の他種線虫への影響	80
料	
農薬の化学名と一般名の命名基準について	81
農薬のマススペクトル	90
マッカレハ細胞質多角体ウィルスを主成分とする製剤（水和剤）の検定法	97
昭和48年度における農薬販売店及び農薬製造工場調査のとりまとめ	103

農業情報検索システムについて

再登録について

新規化合物登録状況